

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田(1階、2階合同)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成25年11月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2297200558-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者様が今まで家庭でやってきた仕事、料理や洗濯、掃除や買い物など、いつまでも忘れて欲しくないの、生活リハビリとして無理強いはなく何気なく仕事ができるような雰囲気づくり。
 ・自然と触れ合ったり、社会との交流を多く持てるように外出している。
 ・自分の親や知り合いの人を入居させたいと思えるようなグループホームにしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景もみられる浜松市郊外の静かな住宅地に事業所はあります。本年4月に開設した新しい事業所ですが、地域からは好意的に受け入れられ、自宅で採れた農産物のおすそ分けももらえることもあります。近所には神社や公民館もあり、自治会からはお茶会や祭典の誘いも受けており、地域交流が快調に進んでいます。また、ファミリーレストランなど外食産業へのアクセスもよく、週に1回は買い物や食事を楽しみに、遠く袋井市まで出向くこともあります。今後は認知症ケアの専門的な福祉施設として地域に周知されることを目指しており、管理者と職員とが一つとなり工夫に取組む姿が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご利用様が明るく、元気に楽しく過ごして頂けるようお手伝いをします。」「職員も働きがいのある施設にしていきたい。」 理念をスタッフ全員で考え事務所に掲示し、いつでも見られるようにしている。	法人理念、事業所理念とともに、個人の理念を作成し、事務所に掲示しています。“利用者とは話す時間をもち、コミュニケーションも良好で、職員一人ひとりが考えて行動している、ことから、開設時に職員で作成した理念の浸透は十二分であるとみてとれます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーへほぼ毎日ご入居者様と一緒に 買い物に出掛けている。 地域の行事・催し物などにご入居者様とでか けている。	地域の清掃活動では利用者と一緒に参加して草取りをおこないました。また地元の劇団や楽団の慰問もあり、12月25日は地域の人を招いたクリスマスパーティーを予定しています。今後は幼稚園や小学校との交流も目指しています。	中学校の吹奏楽部の協力があつたことから、引き続き関係が継続され、定期的な交流が生まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所において、認知症サポーター研修や 介護者教室などの開催をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、ご入居者様の 状況や行事などを報告し、アイデアを頂いたり、 問題点についても相談にのって頂き、サービス向上に結び付けて努力しているところ です。	自治会、民生委員、地域包括支援センター、行政職員といった外部からの参加が叶い、事業報告とともに、地域で開催される行事も紹介されています。事業所では、運営推進会議をとおして、地域交流のきっかけをつかんでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密にとるところまではまだありませんが、困難事例など相談にのって頂いています。 国保連関係について分からないことや、行政上 不明な事が出てきた場合には相談をしていきたいと思 います。	運営推進会議に参加してもらっているため、意見聴取のよい機会としていて、利用者の個別の事例についても相談することがあります。市の主催する会議や研修会にも参加し、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしない方針である。社内での研修でも取り入れ、それぞれ職場会議に落とし研修を行っている。	ユニットの出入り口は、安全のため施錠することがあります。開放している際には、職員が見守ることで束縛しないようにしています。身体拘束に該当すること、しないことを日頃の業務の中で職員に指導し、意識づけを図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回研修を行っている。常に身体的変化や ご本人の言動には注意をしている。また、体の見えない部分は入浴時などでチェックをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内での勉強会にて研修を行っている。現在、制度を利用されている方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み上げ、不明な点があれば十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、ご家族から要望があれば出来るだけそのようにしている。	電話連絡や、面会の折に直接話を聞いていて、家族からは運営に対しての要望が挙がっており、オープンな関係が覗えます。また、運営推進会議の案内と機関紙「神田だより」を届けたリ、アンケートにより意見を集約して相互理解を進めています。	家族が参加したくなる運営推進会議、家族会となるよう、今以上に家族意見の吸い上げを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や朝礼、それ以外でも随時受け付けている。 可能な限り反映出来るよう努力している。	併設事業所と合同での全体会議と、各ユニットでの会議を開催しています。職員からの自発的な意見も随時受け付けていて、法人本部に報告する仕組みが確立されています。また、現場改善といった職員意見は運営に速やかに反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。 キャリアパス制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や会社で加入の在宅協会の外部研修など参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会などに参加をしたり、施設の見学など行っているが、職員の交流する機会が出来ていないので交流を図り良い点、悪い点など勉強し、サービスの質の向上につなげていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人に会い、コミュニケーションを図りながら、アセスを取り、安心して頂きサービスにつなげている。 馴染の関係を保ち、その時その時の状態や状況に応じた対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスをとってからサービスにつなげている。 また、24時間365日連絡・相談が受けられる体制を保ち、状態に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々々の状況をアセスメントし、今必要としていることは何かを把握し対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出(うなぎパイ工場見学・ポカリスエット工場・動物園・ドライブ) 外食(回転寿司・デニーズ・キャッツカフェ・寿がきや)等の楽しみも生活の一貫としてスタッフと一緒に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知り合いの方がいつでも面会に来られる様オープンにし、対応に当たっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との外出や施設での面会にて今まで築いてきた交流を崩さないようにしている。	アコーディオンを楽しむ人も居て、職員や他の利用者を交えて演奏を楽しむことができます。 家族以外にも、友人や知人の面会も受入れ、キーパーソンとなる家族の同意を得て、友人と食事に出かけることもあります。また選挙にも参加できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様によっては会う合わないがあるため、座る場所を考えたり、意思疎通の難しい人はスタッフが間に入り他ご入居者様と毎日楽しく生活出来るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	より良い生活が出来るようにご入居者の希望や意向を聞き、それに沿えるように努めている。	普段の会話の中から、意向や希望が感じられる発語があれば経過記録に記載し、申し送りノートで伝達しています。担当制は特に設けず、どの職員も利用者の意向を聞き取る姿勢を保つよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前担当のケアマネがいれば情報をもらい利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺ったりしている。また、家族からの聞き取りもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握する。また、他ご入居者様とストレスなく一緒に生活出来ているかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア内容の希望があればスタッフや家族らと相談をし、より良い生活が出来るよう職場会議や朝礼などでも話し合う。	短期目標を1ヶ月～3ヶ月程度で設定していて、新たな計画作成につなげています。職員間で作成したものを原案とし、過不足なく家族に承認されたものを本来の計画書とするという規則(法令)を遵守しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量など毎日様子観察をし、気付いた点があれば職場会議で随時話し合いました。スタッフ連絡ノートに記入をして検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望・意向があれば柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医なのか施設に往診に来ている先生にするか家族に聞いている。ちょっとした変化や緊急時に往診の先生に連絡をし指示を仰いで対応している。	協力医の病院が近くに立地しているので、急な体調不良でもすぐに受診することができます。協力医による往診ありませんが、往診医を紹介してもらえ助かっています。法人の訪問看護が月2回程度事業所に来ており、在宅酸素療法の利用者も安心の環境にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になることがあれば看護師に相談し、家族に状態を報告し家族の意向も聞きながら受診を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き、入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。また、医師、家族との話し合い時、家族の了承が得られれば同席するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初日アセスメント時、契約時にターミナルの考え方を本人・家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようスタッフ間でカンファレンスを持っている。	受入れを視野に入れていますが、現在までのところ実績はありません。契約時に本人、家族には意向を確認していますが、意向が変わったとしても柔軟に対応できる職員の技量向上及び体制づくりに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回内部研修で行っている。また、入居者様の状況においてミーティング等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社の規定により、職場会議で話し合い年2回の防災訓練を行っている。運営推進会議時に自治会長より地域の防災訓練はないとのことでしたので、地域との協力体制が築けるよう考えていきたい。	運営推進会議の話し合いを基に、夜間を想定した訓練や、消火器を使った訓練を開催しました。防災シュミレーションの会議をおこない、また外部研修に職員が参加し防災意識を高めています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴を把握する。 個々の能力の把握をし、プライドを傷つけないようにその人その人にあった声掛けや対応に当たっている。	「いつまでも女性らしく」と、化粧やネイルケアの習慣が継続できるように、職員が手伝っています。また花壇の手入れや掃除も、利用者の能力に応じてできるように支援しています。利用者への声掛けについては「人生の先輩である」として尊敬の念を込めるように心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増域をもって対応している。ご入居者様の希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ生きてきた生活習慣が違うので、個々のペースを大事にしている。その時のご入居者様の希望に沿うように出来るだけ実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり、化粧をしたり、また訪問理美容にてカットやカラーなどしていつまでもおしゃれに興味を持って頂けるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理作り、盛り付け、食器を並べて頂いたり、片付けなど毎日の習慣となっている。アセス時に好き嫌いを聞いているが、その日も改めて好みを聞きメニューに取り入れている。食が進むような色合いにも気を付けている。	ユニットごとに食材を購入し、時事に応じた献立を食事ごとに提供しています。利用者も包丁を使った調理にかかわってもらっています。誕生日にはホールケーキを用意したり、近所有名な菓子店からおやつを購入することもあり、楽しみを工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量を記録し特別な状態があれば主治医に連絡をし指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった口腔ケア用品を持参して頂いており声掛け誘導にて行っている。口臭予防としてモンダミン使用。歯間ブラシを使用する方もいるので、職員の介助にて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレの声掛け誘導することで失禁を減らせるよう対応している。	排泄について1日の状態を記録し、昼夜ともパターンに応じた誘導をおこなっています。排泄管理について話し合い、失禁がないことを確認したうえで紙パンツから布パンツに改善された例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便の記録を確認し、食事にはなるべく繊維質のあるものを取り入れ、おやつにはヨーグルトや牛乳、さつま芋等使用したデザートを作るなど工夫している。水分も多く摂って頂くよう決まった時間以外にも飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ずつの入浴を行っている。気分の変化に応じて声掛けをし、ご本人の希望に応じた対応に当たっている。入浴が嫌いな人には足浴から対応している。	夜間入浴していた習慣のある利用者のため、日中でもカーテンを閉めて夜の雰囲気を出すことで入浴につながった例もあります。また、入浴拒否していた利用者が、異性職員の何気ない声掛けで入浴が叶った例もあり、それ以来、同性介助にこだわることなく本人の意向を尊重した入浴をおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の時間に合わせて寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をコピーし保管していつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば、往診の先生に連絡・相談し指示を仰いでいる。ご家族にも報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、外食等外出することで気分転換を図っている。役割として、食器の洗い上げや食器拭きをいたり、洗濯物をたたんだり買い物に出掛けたりして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様の希望を聞き、企画を立て出掛けている。	ドライブを希望する利用者もいて、足湯に行った際にはいつまでも体が暖かく過ごせると喜ばれたこともあります。法人でエコパのサブアリーナを貸切り、運動会を開催しています。事業所からは利用者と職員がそれぞれ参加し、様々な種目を楽しむことができました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時には、お金を渡してご自分で支払いを頂くよう促している。おつりもあればそれも頂いてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本にからの訴えがあれば自由に電話を頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションでは、季節感を取り入れた物を作り1ヶ月飾っているが、見当識障害を起こさないよう大きな変化がないように心掛けている。常に温度調節するよう心掛けています。フロアには歩行の邪魔にならないよう物を置かないようにしている。	共用空間には口腔体操のイラストが模造紙で大きく掲示され、普段のレクリエーションや創作活動の充実が見受けられます。1階は縁側から中庭を臨め、外気浴を楽しむこともできます。2階は天窓からの採光が明るく、廊下にも光が溢れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりどのように過ごしたいのかを把握し、その状況・活動内容に応じて席を移動したり、ソファや畳で横になりたい人もるので、希望に沿った場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に新しいものをわざわざ買わないで、現在使っている物をご用意して頂くよう伝え、家での普段の就寝の状態を崩さないようにしたい。家具類は大きい物ではなく安全に過ごせるような物をお願いしている。	入り口の扉は和風な趣きがあり、木造の建物とマッチしています。どの部屋もベットは持ち込みとなっていて、利用者によっては自宅で使っていたテレビや鏡台のほか、在宅酸素といった医療機器も備えていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は分かりやすいよう名前を付けている。トイレにも名札をつけ出来るだけご自分で目的の場所に行かれるようにしている。		